少林寺拳法

防衛大学校少林寺拳法部

平成１３年度　部誌・ＯＢ会報　№２８

目　次

部　誌

1　部長挨拶
　化学教室　教授　菅野　等
2　学生寄稿
　４６期　主将　菊池　裕紀
　　　　　副将　阪井　旭
　４７期　主将　矢野　健一
　　　　　副将　谷口　裕昭
　４８期　廣神　敏
　　　　　藤原　広匡
　４９期　房野　賢一
　　　　　西川　尚紀
3　平成１３年度部員名簿
4　平成１３年度活動成果
5　各種大会個人成績
6　平成１４年度年間活動計画
7　少林寺拳法部第４７期政権編成表

奥平会報

1　巻頭言
　奥平会会長　１４期　中原　勇
2　平成１３年度奥平会活動概要
3　平成１４年度奥平会活動予定
4　奥平会特別会費徴収結果
　および来年度以降の見通しについて
5　奥平会則の一部改正について
6　期連絡網について
7　全自連盟との連携について
8　関東学生ＯＢ連合会との連携について
9　連絡事項
10　奥平会員名簿

別紙第１　平成１３年度奥平会活動成果報告
別紙第２　平成１３年度奥平会決算報告書
別紙第３　平成１４年度奥平会活動計画
別紙第４　平成１４年度奥平会予算計画
別紙第５　奥平会名誉会員名簿
別冊　奥平会員名簿

ご挨拶

部長　　　　菅野　等

合掌

防大少林寺拳法部のＯＢ諸兄(姉)におかれましては、各部隊でお元気に御活躍のことと思います。

昨年は新世紀の最初の年で希望に満ちた出発の年であったはずが、九月に同時多発テロがおこり、二十一世紀も決して平坦でないことを暗示する一年になってしまいました。

防衛大学校少林寺拳法部においては、創部以来師範として私たちを指導してこられた田村氏が八月にご逝去されると言う非常に悲しいことがありました。これまでの田村師範の少林寺拳法部に対する大きなご貢献に感謝しつつ、ＯＢ諸兄(姉)とともにご冥福をお祈りしたいと思います。

昨年は菊池君が主将としてがんばり、関東学生大会、全日本学生大会などにおいて部員数が少ない割には良い成績をおさめてくれました。現在第47期の矢野君が主将として、先輩達が築いてくれた伝統を守り、少なくなった部員数を昔の多かった時へと戻すべく部員と一丸となってがんばっております。

米山監督それに防衛大学校在籍中のＯＢ全員も新しい出発点に立ったような気持ちで、部員数を増やして隆盛を取り戻そうと努力しておりますので、今年度もＯＢ諸兄(姉)の暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

結手

４６期政権を終えて

４６期　　主将　　　菊池　裕紀

合掌

何のために少林寺拳法をなすべきか。それに気づき始めたのは、私が少林寺拳法部を引退してからのことである。

引退の瞬間、今までの厳しい道程に思いをいたし、また４年間の当たり前であった物達が当たり前でなくなっていくのを感じた。辛いとき、苦しいとき、楽しいときをともに分かち合った同期たち、毎日の練習、通い続けた総体、師範の方々の教え、先輩方との触れ合い、すべてが懐かしく、またすべてが自分の中で行き続けているのを感じる。

きっとこれらの貴重な経験、人とのつながりを得るために少林寺拳法があるのだろう。その昔、開祖は健全な青少年育成のために少林寺拳法を立ち上げたというが、その少林寺拳法によって私は、自分が成長したと感じる、これからこの経験したことを少しでも生かして世の中に貢献をしたい。

最後になるが、ここにいつも隣にいて助けてくれた同期に感謝をしたい。

ありがとう

結手

４６期政権を終えて

４６期　　副将　　　阪井　旭

合掌

卒業まであとわずかという時期になり、この防大生活４年間振り返ってみると、少林寺のことしかなかったような気がします。

一年の夏が宿で一度しにかけた私が無事政権を 47 期に渡す事ができたのもひとえにダーマの加護があったからに違いありません。

引退しながらも気づくと総体にいり私を 47 期後輩達はどのように思っているのでしょうか。きっと私は邪魔者だと思います。しかし総体はこの４年間の思い出が詰まった場所、引退した身ではありますが一番居心地がよい場所なのです。

そんな多くの思い出と居場所をくれた少林寺拳法部に、卒業してから恩返しができれば良いなと思います。今後も防大少林寺拳法部をよろしくお願いします。

結手

少林寺と私

４７期　主将　矢野　健一

合掌

団体演演は少林寺拳法で私が体験してきた思い出の中でも最も心に残るものであると私は思う。私が少林寺拳法を始めてから今まで私は団体演武なるものを体験したことがなかった。その練習たるやまさに筆舌に尽くしがたく、とても数行ですべてを語ることはできないだろう。

厳しく長い練習、その長い中にも一本一本を大切に通していく集中力、人間の限界に挑むかのような練習量、終わった後の同期だけのミーティングではビデオを見てどこのどこがどのように悪いか話し合う、そのたびに「自分たちは本当に大会に通用するのだろうか」といった沈んだ気持ちになる、それが毎日続く。そんな中でどんどん沈んでゆく気持ちを、無理やり上に向ける同期の言葉、一本通すごとに聞こえるあの言葉「次、集中!」「今、全日本の床の上だと思って!」その声が聞こえると自然に力がわいてくる。つらいときこそ前向き、きついときほど笑って。先輩方の教え、それが本当に理解できたときだった。

私は今、教わる側から教える側になった。新入部員が入ったら、きっと私もこう言うのだろう、つらいときほど前向いて、きついときほど笑顔で、と。

結手

４７期団演

４７期　副将　谷口　裕昭

合掌

今年は絶対、全日本最優秀を取れると思っていた。少林寺を続けて三年目の全日本大会がやってきた。今年は、われわれ４７期が主役となり団体演武を行った。やはり今まできつい練習をしてきたかいもあり、本番ではまったく緊張せずに帯び伸びとできた。本戦、直前に４７期が円になりそれぞれ今までしてきたこと、苦しかったことを思い出しそれぞれに精神を団演に集中させた。前の組が終わったとき、われわれの心は、やけに落ち着いていた。自信満々であったからだ。やっている最中は、今まで出一番いい顔になり技も満足でき、完璧に自分自身の演武をできた。結果は2位。本当に悔しかった。自然に流れ出す涙をとめることができなかった。今までの３年間が走馬灯のように頭の中を駆け巡った。本当に悔しかった。団演を指導して頂いた４６期に、またがんばった自分たちに花を添えることができなかった。今はわれわれ４７期が政権である。後輩たちに悔し涙なんかは流させない、次の全日本は全員嬉し涙で泣こうと思う。

結手

防大少林寺拳法のススメ

48期　　　　廣神　敏

合掌

「防第少林寺拳法テイテイター」」毎日夕方学校内に響き渡る気合。学生舎舎前を猛スピードで駆け抜けていく拳士たち。誰もが一目置いている防大少林寺拳法部の練習風景である。そんな防大少林寺拳法部に私は入部した。動機は格闘技に興味があり、少林寺拳法が格好よかったからだ。こんな単純な動機で入った私を待ち受けていたのは、さまざまな試練であった。新入生歓迎のマラソン、夏合宿、初めてのシーズン、そしていつの間にか帯の色が濃くなっていき、白から茶、茶から黒へ染色されていった。こんなことを書くと防大少林寺拳法はきついというイメージしかないように思われるが、それは大きな間違いだ、厳しい試練からいえたものは数多い。その中に「半ば自分。半ば他人のために。」という言葉がある。この精神がすべての人間にあるべきものなのだ。日々この精神を鍛え、今日も気合を響かせ防大少林寺拳法部は駆け巡る。

結手

少林寺拳法部について

48期　　　　藤原　広匡

合掌

私が少林寺拳法部に入部した理由について書きたいと思います。わたしは、当初山が好きだったので山岳部かワンダーフォーゲル部に入るか、武道もやってみたかったので合気道部か少林寺拳法部かまよっていました。山をやめた理由としては土日や祝日しか山に登ることができないことが大きな理由でした。次に合気道か少林寺拳法か迷ったのですが、私にとっては少林寺拳法部のほうが何となく部の雰囲気に私があっているような気がしたので入部することに決めました。入部して思ったことは、このクラブはきつい時こそ楽しく笑顔で盛り上がって乗り越えて行く所なんだなーというのが実感としてあり、とても積極的でいい考え方だとおもい本当にこのクラブに入ってよかったと思いました。これからもつらいときや、きついときなどがあるだろうけれどこの考え方を忘れずにがんばって生きたいと思います。

結手

防大少林寺拳法のススメ

４９期　　　　房野　賢一

合掌

私は前から大学に行ったらクラブは武道系に入ろうと思っていた。そして防大に入り、突きや蹴りの剛法と投げ技などの柔法の両方があること、伝統もありすばらしい実績を残していることなどから少林寺拳法に入部した。さすがに練習は辛かった。それでも声や気合を出し同期や自分自身を奮い立たせ必死についていこうとした。しかし、辛く苦しいことだけではなかった。練習を繰り返しできるようになった時や、同期と何かを乗り越えた時は何よりも嬉しかった。これから関東大会や全日本大会、黒帯など様々なことが待ち受けているが、同期と団結し何よりも自分に負けないように精神的にも肉体的にも鍛えて行きたいと思う。そして日本一を取りたいと思う。

結手

防大少林寺拳法部で１年間を経て

４９期　　　　西川　尚紀

合掌

私は防大少林寺拳法部に入部したのは、高校の時少林寺を習っていて、大学でも続けようと思ったからだ。しかし、この部での練習は私が今まで通っていた道院での練習とは大分違ったものであった。はっきりいって、きつい。こんなに走ったことなんて無かったし、こんなに筋トレしたことも無かった。初めはとんでもない部活に入ってしまったと思った。しかし、我慢してついていくうちに、徐々にではあるが確実に体力がついてきている自分に気が付いた。最初は全く上がらなかった鉄棒の懸垂も、１０回ぐらいならできるようになった。ランニングも先頭に徐々に付いていくことができるようになってきた。この１年、私がこの部で今までがんばってきたことは無駄ではなかった。また、かけがえのない同期もできた。私の隣にはいつも同期がいた。彼らがいなければ、ここまで続けることはできなかっただろう。ありがとう、４９期。これからも一緒に頑張っていこう。

結手

平成１３年度部員名簿

（平成14年1月1日現在）

期　別	小　隊	専攻	要員	氏　　名
４６期	１３２	数物	陸	菊池　裕紀
	１３３	国関	陸	髙木　聰
	１４３	〃	空	山本　剛嗣
	２３１	管理	陸	阪井　旭
	２３２	通信	海	伊藤　和典
	４３１	機工	陸	高橋　牧子
４７期	１２１	国関	陸	関家　健一郎
	１４３	精密	陸	松尾　崇嗣
	２１３	機工	陸	久郷　一雄
	２２３	材物	海	谷口　裕昭
	２４３	応物	陸	村重　亮　＊
	３２３	電子	陸	樋口　智志
	３３１	航宇	空	溝上　雅央
	３３２	土木	陸	田中　勝茂
	４１２	応化	陸	矢野　健一
	４３１	管理	陸	本田　一郎
	４３３	応化	陸	半澤　武久
４８期	３２１	機材	海	飯沢　直人
	３３１	公政	陸	岩田　伸太郎
	４１１	地球	陸	藤原　広匡
	４２１	航宇	陸	小林　猛
	４３３	国関	陸	対比地　貴行
	４２２	国関	海	郡山　伸衛
	４３３	航宇	陸	砂川　広樹
４９期	２４１	理工		北村　暢郎
	２４２	理工		ター・ミン・タイン
	３４１	理工		房野　賢一
	３４２	理工		西川　尚紀
	４１１	理工		永田　忠義
	４４３	人文		中山　智晴

＊印：留年

平成１３年度活動成果

期　間	行　事	場　所	大会等成果
5月4日	関東学生大会	日本武道館	団体演武　最優秀 男女有段　敢闘 男女段外　敢闘
5月27日	新入生歓迎行事	防衛大学校	新入部員数10名
6月10日	神奈川県大会	横須賀文化体育館	二段　優良 初段　最優秀 自由　優秀
6月17日	慶応・早稲田大学との合同練習	防衛大学校	
8月1日〜5日	夏合宿	防衛大学校	
11月3日	全日本学生大会	日本武道館	男子初段の部　敢闘 男子三人掛け　敢闘 団体演武の部　優秀
11月11日	横須賀市民大会	横須賀南部体育館	男女段外　最優秀 優秀 男女有段　最優秀 優秀 単独演武　優良
11月中旬	政権交代	防衛大学校	
11月23日	第7回関東学生ＯＢ現役懇親会	中央学院大学	
1月15日〜18日	寒稽古	防衛大学校	
2月16日	少林寺拳法部ＯＢ杯	防衛大学校	
2月16日	納会	セントラルホテル	
3月25日〜29日	春合宿	防衛大学校	

各種大会個人成績

関東学生連盟大会（平成13年5月4日：日本武道館）

男女段外の部	敢闘賞	332 (2) 安藤由佳・321 (2) 飯澤直人
男女段外の部	敢闘賞	131 (4) 菊池裕紀・431 (4) 高橋牧子
団体演武の部	最優秀	241 (3) 久郷一雄・241 (3) 谷口裕昭
		141 (3) 関家健一郎・341 (3) 樋口智志
		311 (3) 田中勝茂・421 (3) 矢野健一
		413 (3) 本田一郎・441 (3) 半沢武久

神奈川県大会（平成13年6月10日：横浜文化体育館）

一般男子二段の部	優良	231 (4) 伊藤和典・331 (2) 岩田伸太郎
一般男子初段の部	最優秀	113 (3) 松尾崇嗣・313 (3) 溝上雅央
一般男子段外の部	決勝進出	413 (2) 廣神 敏・442 (2) 郡山伸衛
一般自由の部	優秀	113 (4) 菊池裕紀・431 (4) 高橋牧子

全日本学生大会（平成13年11月4日：日本武道館）

男子初段の部	敢闘賞	433 (2) 廣神 敏・413 (2) 対比地貴行
男子段外の部	決勝進出	123 (2) 久我朋大・241 (1) 北村暢郎
男子二段の部	決勝進出	313 (3) 溝上雅央・113 (3) 松尾崇嗣
男子三人掛け	敢闘賞	113 (4) 高木聡・231 (4) 阪井旭
		231 (3) 村重亮
団体演武の部	優秀	421 (3) 矢野健一・241 (3) 谷口裕昭
		311 (3) 田中勝茂・241 (3) 久郷一雄
		413 (3) 本田一郎・441 (3) 半沢武久
		341 (3) 樋口智志・331 (2) 岩田伸太郎

横須賀市民大会（平成13年11月11日横須賀南部体育館）

一般男子段外の部	最優秀	123 (2) 久我朋大・241 (1) 北村暢郎
	優秀	341 (1) 房野賢一・443 (1) 中山智晴
一般男女有段の部	最優良	322 (2) 安藤由佳・421 (2) 小林猛
	優良	413 (2) 廣神 敏・433 (2) 対比地貴行
一般単独演武の部	優良	321 (2) 飯澤直人

平成１４年度年間活動計画

期　間	行　事	場　所	備　考
4月中	全力勧誘期間		目標：２５名
5月4日	関東学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
5月中旬	新入生歓迎行事	防衛大学校	
6月中旬	慶応・早稲田大学との合同稽古	防衛大学校	
6月16日	横須賀・三浦地区大会	横須賀総合体育館	
6月23日	昇段審査	藤沢翔陵高校	２・３・４年がそれぞれ受験
8月上旬又は下旬	夏合宿	未　定	
9月　1日	神奈川県大会	横浜文化体育館	全国大会選考会を兼ねる
10月13日	全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
10月19日	関東学生ＯＢ連合会２０周年記念	帝国ホテル	
11月上旬	開校祭	防衛大学校	演武の披露
11月24日	全国大会	大阪	
11月下旬	政権交代	防衛大学校	
11月30日～12月1日	全自衛隊大会	市ヶ谷	
1月上旬	寒稽古	防衛大学校	
2月中旬	ＯＢ杯演武大会・納会 ＯＢ総会	防衛大学校	
3月下旬	春合宿	防衛大学校	

＊尚，各月一回を基準に師範日を予定

少林寺拳法部第４７期政権編成

役職	氏　　名	所　属	要員・専攻
主　将	**矢野　健一**	**４２１**	**陸上・応科**
副　将	**谷口　裕昭**	**２４１**	**海上・材物**
統制長	**田中　勝茂**	**３１１**	**陸上・土木**
道場長	**本田　一郎**	**４１３**	**陸上・公政**
主　務	溝上　雅央	３１３	航空・航宇
会　計	松尾　崇嗣	１１３	陸上・精密
安　全	久郷　一雄	２４１	陸上・機工
訓練係	半澤　武久	４４１	陸上・応科
３年係	矢野　健一	４２１	陸上・応科
２年係	樋口　智志	３４１	陸上・電子
２年係補佐	谷口　裕昭	２４１	海上・材物
１年係	半澤　武久	４４１	陸上・応科
師範係	樋口　智志	３４１	陸上・電子
本山係	関家　健一郎	１４１	陸上・国関
OB 係	樋口　智志	３４１	陸上・電子

奥平会報

巻　頭　言

奥平会会長　中原　勇

合掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

２１世紀の幕開けとなった昨年は、高支持率の小泉内閣が発足し、聖域なき構造改革により新たな国造りに向け元気にスタートはしたものの、９月１１日の米国中枢に対する同時多発テロの勃発でテロ組織との新たな戦争がアフガニスタンで始まるという２１世紀の安全保障のあり方に一石を投ずる年となりました。

また、１２月１日に敬宮愛子内親王殿下の誕生という明るく喜ばしい祝い事もありましたが、国内経済が長期低迷する中、米同時多発テロや狂牛病問題そして不良債権処理などの影響により、景気・雇用は大変厳しい時代を迎えており、奥平会会員の皆様の中にも、退官後の生活に少なからぬ影響を受けておられるものと思料致します。一日も早い国内経済の回復・安定化を切望する次第です。

一方、防衛庁自衛隊にとっては、テロ対策特別措置法の成立、警護出動の新設、PKO 協力法の改正などが今までにないスピードで行われるとともに、今年の通常国会では長年の懸案事項であった有事法制の整備や省昇格問題の議論も行われる予定であり、「行動して評価される時代」の本格的な到来を迎えております。現役会員の皆様には、国内外での大いなる活躍を祈念申し上げます。

防大少林寺拳法部の昨年の活動成果については、全国学生大会団体演武「優秀」ということであり、立派に伝統を受け継いでいるものと思料する次第です。部員諸官の益々の活躍を期待しております。

最後になりましたが、長年にわたり防大少林寺拳法部の師範を務めて頂きました故田村先生のご冥福をお祈り申し上げますとともに防大少林寺の充実・発展への多大なる貢献に心から感謝申し上げます。

会員並びにご家族皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

結手

平成１３年度奥平会活動概要

1　現役部員に対する支援

夏季合宿、市民大会、全自衛隊大会、関東・全日本学生大会等に対して支援を実施致しました。細部は別紙第１「平成１３年度奥平会活動成果報告」の通りです。特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、ＯＢの方々がご多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。来年度につきましてもできる限り大会の予定を御連絡いたしますので、応援のほどよろしくお願いします。

2　総会の実施

平成１４年２月１６日に防大において平成１３年度奥平会総会を開催しました。総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、奥平会会則の改正、特別会費の徴収及び今後の奥平会活動について発議しました。出席いただいた会員の方々、ありがとうございました。

3　平成１３年度会計報告

別紙第２「平成１３年度奥平会決算報告書」を参照してください。

平成１４年度奥平会活動予定

1　平成１４度奥平会活動内容

別紙第３「平成１４年度奥平会活動計画」を参照してください。

2　平成１４年度奥平会予算

別紙第４「平成１４年度奥平会予算計画」を参照してください。

3　平成１４年度奥平会本部

役職	期別	氏名	連絡先
会長	１４Ａ	中原　勇	関西補給処長
副会長（市ヶ谷等）	１７Ａ	鈴木　陽	防衛研究所副所長
副会長兼総括幹事	２７Ａ	米山　多佳志	８－４０－３８０７
会計監査委員	３１Ａ	久保　敏浩	８－４０－２０９１
会計	４２Ａ	井田　輝彦	８－４０－３１８１
広報	３８Ｎ	高取　哲郎	８－４０－２１０３
庶務	４１Ｆ	松下　尚之	８－４０－３３８３

奥平会特別会費徴収結果および来年度以降の見通しについて

防大奥平会会計係　２等陸尉　永友恒知（４０期）

(1)　１３年度の特別会費について

１３年度から特別会費の納入についてお願いしましたが、おかげさまで、¥301,183 もの会費を徴収することができました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。

(2)　１３年度の会計について

収入		支出	
前年度繰越金	¥1,601,829	１３年度会報発行費	¥42,873
OB 会費（４５期４名）	¥214,800	各種大会支援	¥167,400
特別会費	¥301,183	合宿支援	¥5,571
利息	¥9,222	学生活動支援	¥196,821
合計	¥2,127,034	技術向上支援	¥200,000
		奥平会運営及び活動費	¥226,714
		合計	¥839,379
残高（収入ー支出）			¥1,287,655

１３年度の会計は１２年度から引き続き支出事項の見直しを行い、現在の少林寺拳法部の活動事情に合わせた支出へと改善を向けております。また、今年度も昨年度とほぼ同水準の支出を維持できるものと思われます。今年度も技術向上支援金を縮小した分、新入生勧誘をはじめとする学生活動の支援に使用しました。

(3)　残高推移の試算

今後も今年度と同様に会報発行費、備品購入費等を削減した場合の年間支出合計は約¥800,000 になります。これは主要な収入源である新規 OB 会員の入会費（一人当たり¥53,700）の約１４人分の金額です。現在の部員数は４学年：６名、３学年：１０名、２学年：１０名、１学年：５名であり、部員数がこの状態のまま続くと年間２０万円～５０万円の残高の漸減が予想されます。また、今回削減の会報印刷費（¥150,000）等は削減状態の維持が困難であり、今後も年間経費を¥800,000 以内で維持することは厳しいといえます。

(4)　対策

支出抑制の努力を継続するのは勿論のことですが、前項でも述べたようにこれ以上の活動経費の削減は極めて難しいと思われます。そのため、今年度に引き続き H14 年度も特別会費の納入をお願いしたいと思います。これは、先の本総会において会則第６条を適用し、以下の通り会員から特別会費 3000 円を徴収することで承認された件に則っております。なお、徴収金額については賛同者数を考慮しつつ収入全体を見ながら今後も検討が必要と考えますが、

今年度も同額をいただくことに致します。

14年度特別別会費納入の依頼について

H12 年度から特別会費の納入についてお願いしましたが、皆様の御協力により 13 年度は、¥301,183 の特別会費を徴収することができました。この場を借りて篤く御礼申し上げます。

H13 年度の会計も 12 年度に引き続き支出事項の見直しを行い、現在の少林寺拳法の活動状況に合わせた支出へと改善を続け、12 年度と同様の支出に維持できることが出来ました。

しかしながら、主要な収入源である新規OB 会員の入会費（一人当たり¥53,700）は、14 年度につきましてもこの状況が続くものと考えられます。

一方、これまでの支出削減で最も効果が大きいのは会報印刷代（約¥150,000）でありますが、今後更なる印刷代削減を継続するように努力いたします。しかしながら、今後支出が増える可能性も少なからず存在します。

今後会費の減少を抑えて円滑な活動を行うためには、支出抑制の努力を継続するのは勿論のことと考えておりますが、これ以上の経費削減は極めて困難と思われます。また現在の部員数（４学年：６名、３学年：１０名、２学年：１０名、１学年：５名）を考慮すれば、今後今年度と同程度の特別会費がいただけたとしても、数年後には大変厳しい状況になります。これを改善するためには部員数の拡充と経費の効率的使用はもちろんのことですが引き続きＯＢの皆様に特別会費を集めることが必要となります（付紙参照）。以上のことからH13 年度に引き続き、H14 年度以降も奥平会の皆様から下枠に示す特別会費の納入をお願いしたいと思います。これにより、会費の漸減を押さえることが出来ると見込んでおります（付紙参照）。より多くのＯＢ会員のご協力をお願いいたします。

納入方法は、下記のとおり同封の振込用紙にて指定口座にお振り込み下さい。

各駐屯地・基地毎で一括して納入していただけると幸いです。

奥平会幹事　　防大少林寺拳法部監督　米山多佳志

○　徴収額

３０００円／１人

○　徴収方法

各会員毎または各駐屯地・基地一括での郵便口座振り込み

○　納入期限

決算を１月に行うため平成１４年１２月３１日までにお願いいたします。

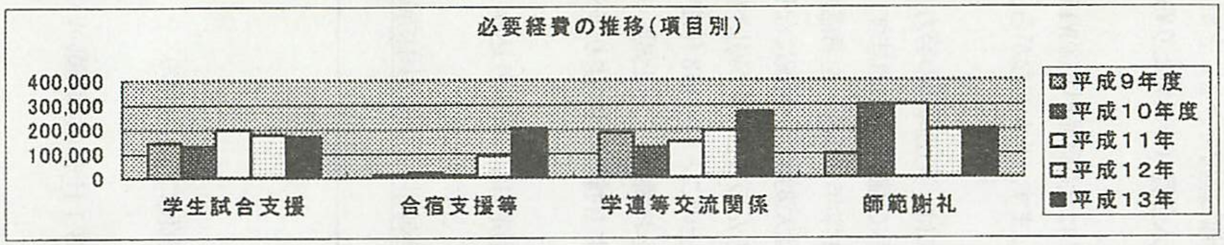
○　徴収期間

平成１２年度から卒業生が１４名以上に増加する年度まで

註：振込みの際の住所は部誌の名簿に反映させていただきますので、記入していただきますようお願いいたします。

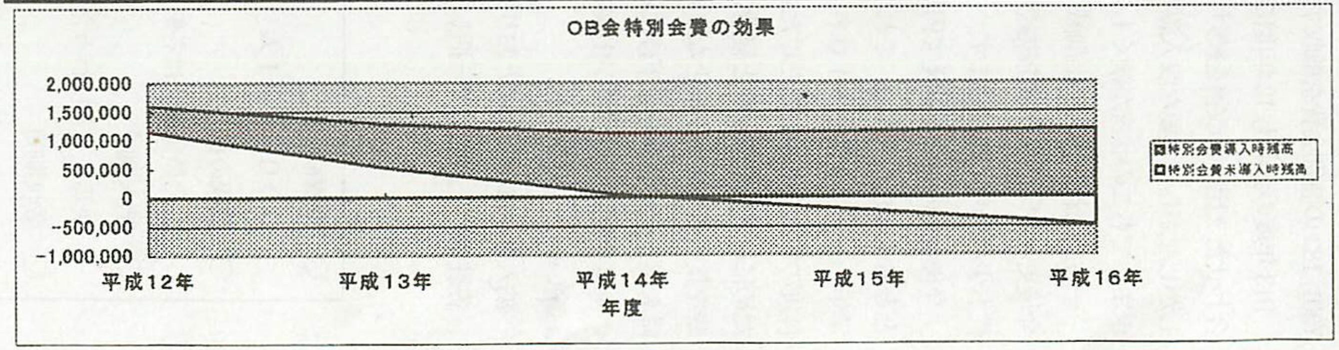
必要経費の推移

	学生試合支援	合宿支援等	学連等交流関係	師範謝礼	合計	備考
平成9年	144,000	11,792	183,500	100,000	439,292	校友会師範支援中止
平成10年	130,000	21,703	123,000	300,000	574,703	
平成11年	200,000	10,000	148,653	300,000	658,653	全国大会出場
平成12年	177,407	93,385	192,167	200,000	662,959	
平成13年	167,400	202,392	269,587	200,000	839,379	新入生勧誘資金



OB会特別会費の効果　(網掛け:実測値、網掛け無し:予測値)

	前年残高	必要経費	収入(OB会費)		特別会費未導入時残高	特別会費	特別会費導入時残高
平成12年	1,036,828	662,959	53700×6	322,200	1,148,949	452,880	1,601,829
平成13年	1,601,829	839,379	53700×4	214,800	524,370	301,183	1,287,655
平成14年	1,287,655	800,000	53700×6	322,200	46,570	300,000	1,109,855
平成15年	1,109,855	800,000	53700×10	537,000	-216,430	300,000	1,146,855
平成16年	1,146,855	800,000	53700×10	537,000	-479,430	300,000	1,183,855



奥平会則の一部改正について

標記につきましては、すでに昨年度、一昨年度と会長の選考要領を主体に改正いたしました。この２年間の検討・会則の改正により奥平会の運営の方向づけがなされ、意義があったものと考えております。今般さらに副会長に関する条項を実際的なものとするとするべく検討をして総会に諮りました。

【奥平会則１１条２項】

旧条文

「会長は、防大及び市ヶ谷駐屯地の会員の中から、それぞれ適任と思われる者を副会長に任命する。」

↓

「会長は、防大及び市ヶ谷駐屯地等の会員の中で、それぞれ適任と思われる者から副会長を任命する。また、必要によりこれを免ずることができる。」

改正の趣旨につきましては、２点挙げることができます。

先ず第一点は、昨年までの考え方と同様、役員選考に関する事項であります。具体的には副会長の選考に関することで、条文に「等」を用いることにより防大及び市ヶ谷駐屯地近傍よりさらに広い概念を明示して首都圏地域に勤務される適任者への副会長選考を可能にすることにあります。

第２点目は、会長の副会長に関する任免権を明確にすることにあります。

これらの検討案につきましては前述したとおり２月１６日（土）、防大で開催しました総会において承認を得ましたことを会員の皆様に、本紙面を借りまして御報告いたします。

目黒駐屯地　副会長　鈴木　陽

期連絡網について

1　主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

2　連絡の要領

⑴ 各期に１名、連絡担当者をおく。

⑵ 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年１０月１日までに同期生の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。

⑶ 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年１１月１日までに奥平会本部（防大庶務）に連絡する（連絡の無い場合は、防大同窓会名簿及び昨年度のデータを用いる）。

(4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

３　連絡担当者の指名

３年を任期とし、次の担当者を指名する（継続を妨げない）。

４　期連絡網

直接連絡・補助手段

奥平会本部（庶務）	８－４０－３３８３（松下２尉）
↑	１１月１日までに変更事項を連絡
期連絡担当者	
↑	１０月１日までに変更事項を連絡
全会員	

５　期連絡担当者　（１４．３．１現在）

１０	１０Ａ	蔵田　弘明	退職	２７	２７Ｆ	堀田　隆治	目黒
１１	１１Ａ	勝野　建朗	退職	２８	２８Ａ	湯浅　悟郎	市ヶ谷
１２	１２Ａ	衛藤　利治	小郡	２９	２９Ａ	甲斐　正人	市ヶ谷
１３	１３Ａ	高本　俊之	三軒家	３０	３０Ａ	福田　洋司	神町
１４	１４Ａ	清水　重周	朝霞	３１	３１Ｎ	迫田　浩文	市ヶ谷
１５	１５Ａ	上杉　和壽	目黒	３２	３２Ａ	福重　毅尚	市ヶ谷
１６	１６Ａ	富本　啓一	福岡地連	３３	３３Ｎ	町島　敏幸	目黒
１７	１７Ａ	福澤　賢	練馬	３４	３４Ａ	竹内　博忠	市ヶ谷
１８	１８Ｆ	笠原　久	春日	３５	３５Ａ	戒田　重雄	多賀城
１９	１９Ａ	屋久　俊郎	朝霞	３６	３６Ａ	藤岡　忠生	目黒
２０	２０Ａ	小林　実	朝霞	３７	３７Ｎ	高取　哲朗	防大
２１	２１Ａ	湖崎　隆	市ヶ谷	３８	３８Ａ	奇藤　浩	前川原
２２	２２Ａ	松村　利宏	勝田	３９	３９Ａ	中村公多朗	霞ヶ浦
２３	２３Ａ	日高　政広	市ヶ谷	４０	４０Ａ	上野　洋介	富士
２４	２４Ｆ	中館　利光	入間	４１	４１Ａ	後藤　仁志	守山
２５	２５Ｎ	内山　哲也	目黒	４２	４２Ａ	古賀　信之	千僧
２６	２６Ｆ	福島　睦	目黒	４３	４３Ａ	廣瀬　繁	吉井

全自衛隊少林寺拳法連盟との連携について

奥平会副会長　２７期　米山多佳志（防大少林寺拳法部監督）

毎年初夏、全国の駐屯地・基地などで全自衛隊少林寺拳法大会が開催されていることは会員諸兄ご承知のことと思います。この大会は昭和４９年１２月に航空自衛隊浜松基地で第１回大会を開催して以来平成１３年度大会で２８回を数え、昨年７月航空自衛隊入間基地で開催され

ました。大会には奥平会会員も選手や役員等として、また防大少林寺拳法部の現役学生は選手として参加しております。この大会は「全自衛隊少林寺拳法連盟（以下全自連盟）」の主催によるものですが、このような全自連盟への活動に今後より多くの奥平会会員が参加することへの期待も高まることと思います。そこで、全自連盟について概要をお知らせし会員諸兄の参考にさせて頂きたいと思います。

全自連盟の発足と現在までの経緯ですが、まず昭和４７年４月当時の防衛庁長官江崎真澄氏を会長にお迎えし「少林寺拳法自衛隊連合会」が設立されました。設立と同時に当時航空自衛隊に勤務されていた奥平正人１等空佐（当時）が理事長に就任されています。奥平元１空佐はご承知のように防大の大隊指導教官として勤務している間に防大少林寺同好会を発足させるとともに防大OB会である「奥平会」の命名をされた方でもあります。なお５２年には奥平理事長は副会長へ、顧問には昨年お亡くなられた田村倉蔵先生が就任されておられます。その後の昭和５４年に「全日本自衛隊少林寺拳法連盟」、平成３年には「全自衛隊少林寺拳法連盟」と名称を改め現在に至っております。会長は平成１１年から元防衛研究所長大越康弘氏が就任されています。

全自連盟は、財団法人少林寺拳法連盟（会長新井庸弘[つねひろ]氏）の下部組織であり現在同様の連盟として「都道府県」、「全日本実業団」、「全日本学生」、「全日本高等学校」の４団体があります。防大の少林寺拳法部は全日本学生少林寺拳法連盟に所属しておりますが、同時に全自連盟の規約により「準加盟」と指定されており全自大会への参加が可能となっております。全日本高等学校連盟に所属する少年工科学校も同じ立場です。当初１７支部で発足した連盟も現在では２７支部５００名の会員が所属し、奥平会会員も全自連盟の総括理事等として運営に携わってきております。因みに陸、海、空及び機関・混成にはそれぞれ８、６、８、５の支部が所属しております。

連盟の主要な事業として前述の全自大会があり、これまで陸海空及び機関の連盟支部の方々が主体となって実施されてきました。一時、大会会長を支部の所在する駐屯地・基地などの司令にお願いしたこともありましたが、現在は連盟会長が大会会長をかねております。また平成元年及び平成２年、当時（財）日本少林寺拳法連盟会長宗道臣開祖も全自大会に出席されたとの記録も残されています。なお１３年度第２８回全自衛隊少林寺拳法大会は単独演武（有段の部、段外の部）、組演武（三段以上、初二段の部、段外の部）、団体演武の区分で試合が行われました。組演武三段以上の部、団体演武の部で奥平会会員が良好な成績を収めたことを紹介しておきます。全自大会等への参加に関して昨年１２月防衛庁としての新たな考え方が示されました。参加する場合の具体的な要領等は、陸海空自衛隊それぞれ区々ですが参考までお知らせします。

全自連盟も今後の活動の活性化を図るため、ＯＢ会組織の発足等、様々な検討を行っているところです。奥平会会員が全自連盟にどのように関わっていったらよいのか、今後会員の皆様のご意見、アイディアを今後伺う予定です。よろしくお願いします。

関東学生ＯＢ連合会との連携について

奥平会副会長　17期　鈴木　陽

奥平会は防大少林寺拳法部卒業生有志の集まりですが、目的は会員の親睦と防大少林寺拳法部発展への寄与です。このため防大に勤務する会員を中心として現役学生に対し物心両面にわたる支援をしてきたことはご承知の通りです。他大学もそれぞれOB会を組織しておりますが、奥平会として他大学OB会との連携を深めることも重要な活動の一つです。会員諸兄にご理解を頂くためOB会活動の最近の様子について筆をとりました。

各大学のＯＢ会活動は学生大会等現役学生の活動の応援は勿論、平素の指導などそれぞれの大学の事情によりますが、卒業後の実社会での繋がりも含め先輩・後輩の関係を大切にしながら活動しているようです。このような各大学ごとの卒業生からなるOB会を束ねる組織とし関東地区においては「少林寺拳法関東学生OB会連合会」が設立され、東京を中心に１０７大学等が加入しております。他の地区としては北海道、東北、北陸、東海、中部、関西、中四国と九州の８地区があり、関東地区と併せて全部で９地区に区分されています。この様子は地区連盟を構成する大学などの分布と強い関係があると思います。ＯＢ会活動は「ＯＢ会連合会」を主体として行われていますが、関東地区では更にこれらの連合会活動を後輩に譲った元役員（連合会長、副会長、事務局長経験者）からなる「少林寺拳法関東学生ＯＢ同友会」なる親睦組織が在ります。活動の主体である連合会の現顧問には高村元外相（中大昭和39年卒）、城島衆議院議員（東大昭和42年卒）、石原行革担当大臣（慶大昭和56年卒）の３名が就任されております。

さて、OB 連合会の活動の現状を見ますと現役学生との関連が強い行事として毎年５月に行われる関東学生大会（平成１３年度は第３８回大会）への協力があります。大会運営は現役学生によって行われますが、この大会で優秀な成績を収めた者に OB 杯が授与されます。また OB 会連合会は年度の事業として７月に定期総会を行います。ここまではごく一般的ですが、少林寺拳法OB会活動の特徴はこの定期総会を現役学生連盟の総会と同時期に行うこととしている点にあり、総会終了後現役学生を交えて懇親会を行っております。１３年度は、ローマ字の発明者として有名なヘボン博士が創立された明治学院大学（東京港区白金）で行われました。更に11月にはＯＢ会会員と現役学生が協力して開催される「OB 現役懇親会」が行われます。今年度で８回目を迎えるこの催しは大きく２部構成となっており、前段でOBを含めた実技練習を、後段で現役を含んだ懇親会が行われます。今年度は総会が行われました明治学院大学で開催されました。防大からも３年生を主体とした現役と OB４名づつ合計８名が参加しました。実技練習では何（十？）年ぶりに道衣を着たという方もおられるようです。因みに平成１１年度の「OB 現役懇親会」は防大で開催されました。普段小原台訪問の機会がない方が多かったためか今もって話題になるなど好評を博したようです。

さて、OB 連合会の活動ですがこのように現役との連携を密に保ちながら定期的に、かつき

め細かく行われている例が他の武道などの運動部にあるのだろうか、という素朴な疑問を抱きつつ会合などの折にいろいろ話を伺いました。それによりますと、このような大学OB会相互の活動はそもそも開祖宗道臣先生の働きかけがあったようです。もともと開祖は戦後混乱期に精神修養の必要性を若者に説いたところなかなか説法だけでは理解されず、人を集める一つの手段として阿羅漢拳を創案しこれを精神修養の手段として教えを普及させることに成功したと言われております。開祖の考えは大学４年間を修業の一過程と位置付け、修行は生涯継続されるべきものとされOBが現役学生と力を合わせて精進するように考えられたようです。このような教えのもと、卒業後もOBと現役が力を合わせ少林寺拳法の普及と個人の修業を続ける活動の場を提供することがOB会連合会の一つの役割でもあります。現在関東OB会連合会会長の木村氏（東大昭和42年卒、３期目）は直接開祖の指導を受けたお一人ですが、OB同士の交流と現役学生を激励支援する趣旨を明確にしたうえで長年にわたり連盟を運営しております。木村会長は道訓の一つである「半ばは己の幸せを、半ばは自分の幸せを。」の考えを引用し、「連盟への協力はまず自分のOB会をしっかり運営し、その上で連盟に協力して貰いたい。」と話されています。各大学OB会とも組織の維持・強化等いろいろな問題を抱えたうえで連合会活動に参加している様です。

これまで、奥平会は現役学生と協力しながら他大学との協力に地道な努力をしまた汗も流してきました。現役時代、防大のおかれた地理的・規則的な制約の中で色々と苦労のあったことを思い出す方も多いと思います。その甲斐あってか連合会等において現在の防大少林寺拳法部及び奥平会は大変丁重な処遇を頂いております。

今後とも所先輩の努力を大切にし、奥平会として誠意を持ってＯＢ会活動に参加していきたいと思います。何かの参考になればと思い拙文をまとめましたが、会員皆様もご支援ご協力よろしくお願いいたします。

連　絡　事　項

１　会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気付きの点がございましたら期連絡担当者又は防大本部庶務まで御連絡ください。なお、今年度は期担当連絡者から連絡がほとんどはいらなかったため、各人の所属等は防大同窓会及び昨年度のデータを使用いたしました。

２　期連絡網について

期連絡網について別項のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡ください。

3　本部連絡先

防衛大学校理工学研究科（情報通信）

2等空尉　松下　尚之

専用線　8－40－3383

局線　0468－41－3811（3383）

e-mail g40008@cc.nda.ac.jp

4　その他

(1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。

(2) インターネットの防大ホームページ（http://www.nda.ac.jp/index-j.html）に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。また、経済的にも作業的にも防大本部員を圧迫してきた会報の作成・配布をこのホームページに代えることも検討しております。

奥平会員名簿

1　奥平会名誉会員名簿

別紙第5「奥平会名誉会員名簿」をご覧ください。

2　奥平会員名簿

別冊「奥平会員名簿」をご覧ください。

別紙第1

平成13年度奥平会活動成果報告

1　少林寺拳法部活動支援

(1) 平成13年度防大少林寺拳法部活動成果・・・・部誌該当項目参照

(2) 各種活動に対し、防大所属会員により金銭的・人的支援を実施した。

(3) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣会員から激励、金銭的支援を受けた。

2　横須賀・三浦ブロック活動参加

(1) 月例会議参加（監督・米山）

(2) 6月10日：神奈川県大会協力（競技集計係）

(3) 11月11日：横須賀市民大会協力（競技集計係）

(4) 合同練習及びビデオ撮影・編集協力（ビデオ・CDROM完成）

(5) 2月3日：ブロック新春の集い協力及び参加

3　関東学生OB連合会活動参加

(1) 2月17日：新春の集い参加

(2) OB交流会参加（関東学生大会時）

(3) 7月15日：総会参加

(4) 11月23日：OB現役懇親会参加

(5) 2月7日：連合会・同友会主催祝賀会参加

4　校内活動

(1) 少林寺拳法部顧問会議（月1回基準）

(2) 政権・OB合同会議（必要の都度）

(3) ホームページの作成及び運営

(4) OBの指導力の向上：

・武道専門学校入学（米山・永友）

・OBの自衛隊大会参加（出口・佐藤・米山・目黒駐屯地所属OB）

別紙第2

平成13年度奥平会決算報告書（平成13年1月1日～同年12月31日）

1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	1,601,829
45期OB会費	214,800
OB特別会費	301,183
利息	9,222
小計	525,205
総計	2,127,034

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	37,400
全日本学生大会	80,000
小計	167,400
学生支援金	
春合宿支援金	3,379
夏合宿支援金	2,192
新入生獲得支援金	120,000
その他	76,821
小計	202,392
技術向上支援金（師範代）	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	93,000
三浦ブロック関連	71,000
部誌発行関連	42,873
OB杯・慶事等	62,714
小計	269,587
総計	839,379

2. 残高報告

¥1,287,655 円

上記内容に以上ありません

奥平会会計係　永友　恒知

3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員　久保　敏浩（印）

別紙第３

平成１４年度　奥平会活動計画

１　活動内容

⑴ 部活動支援

金銭的・人的支援を継続して実施する。この際、臨時ＯＢ会費を有効に活用する。

⑵ 横須賀・三浦ブロック活動参加

近隣支部との合同練習を活発に実施する。

⑶ 関東学生ＯＢ連合会活動参加

懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。

（青山学院大学と調整中）

⑷ 校内活動

ＯＢの部活動・練習参加は定着しつつあるが、今以上にＯＢ自身の技術向上を図る。

２　部の活動予定

部誌の該当項目参照

３　活動に当たっての重点事項

⑴ 臨時ＯＢ会費徴収を卒業部員が当分の間継続する。（１学年部員が減少したため）

⑵ 新入部員獲得に重点的な支援を行う。（ダイレクトメール、金銭支援、勧誘活動）

⑶ 指導に当たる４学年が10名であるので、ＯＢが積極的に技術指導に当たる。

⑷ ＯＢの技術向上のため、武道専門学校への入学及び各種大会への参加を１２年度以上に推進する。

⑸ 他駐屯地・基地からのＯＢ支援・激励を積極的に得る。

⑹ 計画的な人事要望を上申し、各幕と連繋しながら、防大勤務ＯＢの増加を図る。

⑺ 期連絡網が有効に機能していないので、メールアドレスを含めた連絡網を再構築し、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

別紙第4

平成14年度奥平会予算計画（平成14年1月1日～同年12月31日）

1. 収支案

収入	
前年度繰越金	1,287,655
小計	1,287,655
45期OB会費	375,900
OB特別会費	300,000
利息	8,000
小計	683,900
総計	1,971,555

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	50,000
全日本学生大会	80,000
小計	180,000
学生支援金	
春合宿支援金	5,000
夏合宿支援金	5,000
新入生獲得支援金	60,000
小計	70,000
技術向上支援金（師範代）	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	90,000
三浦ブロック関連	70,000
部誌発行関連	45,000
OB杯・慶事等	60,000
小計	265,000
総計	715,000

2. 収支合計

¥1,256,555 円

別紙第5

奥平会名誉会員名簿

職 名	氏 名	現所属及び役職	連 絡 先
部 長	菅野 等	応用化学科 教 授	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東6丁目34番1-411 TEL 045-786-5877
師 範	神田憲和	三多摩副道院長 准範士6段	〒164-0003 中野区東中野2-14-7 TEL 03-3363-6275
師 範	頼富英武	少年工科学校顧問 准範士6段	〒238-0315 横須賀市林5-6-11 TEL 0468-56-7663
前部長	丸川武志		〒120-0046 足立区小台2-33-2 TEL 03-3919-5910
顧 問	高橋信明	応用物理学科 教 授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南3-16-16 TEL 045-784-2339
顧 問	有賀 敦	機能材料工学科 講 師	〒239-0814 横須賀市二葉1-55 A-202 TEL 0468-44-0264
顧 問	岩谷 正一	防衛学事務室 2等海曹	〒238-0021 横須賀市三春町6-61-11 TEL 0468-23-6960
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名誉会長)		〒828-0044 豊前市小石原392-3 TEL 0979-82-2287

別冊

奥平会員名簿

(平成１４年３月１日現在)

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
10	A	黒野　耐	目黒	防衛研究所主任研究官
10	A	三井　光夫	目黒	防衛研究所
10	A	松島　順一	退職	Ｒ．Ｓ．Ｃ
10	A	清水　蔦男	目黒	幹部学校研究部長
10	A	蔵田　弘明	退職	安田火災海上保険(株)
10	F	出田　弘一	退職	大東京火災宮崎サービスセンター調査部
10	F	鈴木　勝人	御逝去	
10	N	岡崎　昭一	退職	
11	A	坂元　正昭	退職	国際デジタル通信(株)
11	A	勝野　建郎	退職	東京海上火災保険(株)
11	A	須崎　了英	健軍	西部方面総監部
11	A	水野　照夫	退職	東京理科大学
11	A	廣岡　征夫	退職	廣岡事務所
11	F	上田　勇作	退職	鹿児島市議会議員
11	F	清水　正睦	入間	中部航空方面隊司令部
11	A	田谷　俊之	退職	(株)アスピック管理部
11	F	藤田　尚	入間	第４補給処副処長
11	N	佐藤　正秀	退職	愛心会大隅鹿屋病院
11	N	渡辺　貞吉	退職	(株)日立アドバンストシステムズ
12	A	衛藤　利治	退職	
12	A	新井　宏	御逝去	
12	F	田中　紘治	府中	調本府中調事
12	F	野口　昭徳		
12	N	橋田　典幸	佐伯	佐伯基地分遣隊
12	N	佐藤　備凡	退職	
12	N	津川　保夫	呉	JRC特機呉事業所
13	A	益田　修	小倉	小倉駐屯地業務隊
13	A	戸田　勝秋	守山	第10後方支援連隊　本部及び本部付隊
13	A	高本　俊之	退職	山陽セフティー(株)
13	A	西村　繁樹	目黒	幹部学校教官
13	A	石原　薩雄	北熊本	北熊本駐屯地業務隊
13	A	白石　克成	退職	
13	F	松生　剛	市ヶ谷	航空中央業務隊
14	A	原田　敏男	山口	
14	A	清水　重周	朝霞	研究本部 第２研究課長
14	A	清水　直正	相馬原	相馬原駐屯地業務隊
14	A	斉藤　正精	退職	日本ＩＢＭ(株)
14	A	赤瀬　良二	北千歳	第１特科団本部中隊
14	A	中原　勇	帯広	第５師団司令部　※14.3　関西補給処へ
14	F	高須　好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)
14	F	今井　岸夫	退職	三陽機器(株)
14	N	森田　則広	御逝去	
15	A	安村　幸次	横浜	横浜防衛施設局事業部
15	A	井口　昌之	古河	古河駐屯地業務隊
15	A	遠田　雅美	函館	会計監査隊北部方面分遣隊
15	A	奥野　耕三	大久保	大久保駐屯地業務隊
15	A	岡　隆	高田	高田駐屯地業務隊
15	A	加藤三千夫	富士	開実団　装備実験隊長
15	A	花房　晃夫	北熊本	北熊本駐屯地業務隊　総務課
15	A	古川　照久	目黒	幹部学校
15	A	三嶋　利克	朝霞	朝霞駐屯地東部方面調査隊
15	A	上杉　和壽	目黒	幹校教育部戦術第２教官室長　※14.4.1 海田市駐屯地業務隊長へ
15	A	大竹　義信	島松	北海道補給所
15	A	長船　敬天	福知山	福知山駐屯地業務隊

期別	要員	氏　名	基地等	所属部隊等
15	A	土居　良治	帯広	第１０７地区警務隊
15	A	野間口光男	退職	鹿児島県立始良病院
15	F	島田　徹	浜松	教材整備隊
15	F	福嶋　健司	春日	西空司令部　監察官
15	N	今村　修二	呉	ひえい
15	N	山下　啓介	退職	(株)インテック　特機システム部
15	N	山崎　富雄	大湊	大湊地方総監部
15	N	中島　栄一	船越	自衛艦隊司令部
16	A	芦岡　広明	八尾	中部方面航空隊本部
16	A	岡田　正一	姫路	姫路駐屯地業務隊
16	A	佐々木二郎	小平	業務学校
16	A	斉藤　健治	前川原	幹部候補生学校
16	A	竹内　準一	善通寺	善通寺駐屯地業務隊
16	A	内山　晃	市ヶ谷	中央資料隊
16	A	富本　啓一	福岡	福岡地連部長
16	A	平川　真士	高松	香川地連
16	F	小笠原　猛	退職	自営業
16	F	八木橋　享	御逝去	
16	N	阿部　哲夫	横須賀	第61護衛隊
16	N	福島　一夫	御逝去	
17	A	吉川　雄二	市ヶ谷	技術研究本部
17	A	荒木　正廣	健軍	西部方面総監部
17	A	高橋　輝正	退職	NEC無線事業本部　誘導光電事業部
17	A	佐藤　吉信	霞目	東北方面航空隊
17	A	小坂　正志	市ヶ谷	情報本部
17	A	小池　保治	福岡	４師団司令部
17	A	村田　芳次	小平	業務学校　システム教育部
17	A	中尾　吉孝	小平	業務学校
17	A	飯島　定雄	市ヶ谷	通信団　本部および本部付隊
17	A	富安　久芳	北熊本	８師団司令部
17	A	福澤　賢	練馬	第１普通科連隊長
17	A	鈴木　陽	目黒	防衛研究所 副所長
17	A	廣瀬　誠	那覇	第１混成団　本部および本部付隊
17	F	磯野　茂樹	浜松	警空隊　第２整備群
17	F	稲見　潔	木更津	１補　整備部
17	F	永富　信吉	築城	第８航空団
17	F	細田　敏夫	退職	三条機械製作所(株)
17	F	山本　剛	退職	大成ロテック(株)　北海道支社
17	F	松田　清明	那覇	南混司　装備部　計画課
17	F	西岡　義博	入間	３補　総務課
17	F	石渡　幹生	目黒	幹部学校研究部　第２研究室
17	F	前田　慎一	芦屋	１３教団　団司令部　総務部
17	F	澤　博海	退職	広島県庁
17	N	久和　清幸	呉	はりま
17	N	西嶋　正幹	退職	
17	N	塔岡　道夫	横須賀	あすか
18	A	安藤　恒夫	朝霞	朝霞駐屯地業務隊
18	A	河野　基春	飯塚	第２施設群　本部管理中隊
18	A	宮田　秀二	北宇都宮	航空学校宇都宮分校
18	A	工藤　重見	十条	補給統制本部
18	A	紫村　敬二	高田	第５施設群　本部及び本部管理中隊
18	A	首藤　敏明	島松	北海道補給処
18	A	上田　正文	朝霞	東部方面総監部
18	A	千原　和人	札幌	北部方面総監部

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
18	A	川原　彰	小平	業務学校
18	A	大西　正俊	朝霞	研究本部
18	A	中島　仁文	佐賀	佐賀地連
18	A	渡辺　義幸	山形	山形地連
18	A	門野　睦廣	十条	補給統制本部
18	A	麩澤　章雄	上富良野	第２戦車連隊　本部および本部管理中隊
18	F	笠原　久	春日	西警団　基地業務群司令
18	F	勘米良幸一	御逝去	
18	F	長尾　齋	三沢	３空団　基地業務群
18	F	白数　裕樹	退職	京都産業大学
18	N	岩渕　秀樹	船越	護衛艦隊司令部
18	N	近藤　清司	船越	海洋業務群司令部
18	N	松井　博	厚木	航空集団司令部
18	N	平原　誠	鹿屋	第２１１教育航空隊
19	A	園部　武典	市ヶ谷	陸上幕僚監部　調査部調査課
19	A	屋久　俊郎	朝霞	東部方面総監部 防衛部運用室運用係長
19	A	古庄　和裕	富士	富士学校　企画室
19	A	三星　忠正	仙台	東北方面調査隊本部
19	A	青柳　忍	高田	第２普通科連隊　本部及び本部管理中隊
19	A	前之園敏雄	朝霞	東部方面総監部　監察官室
19	A	津留崎清宝	市ヶ谷	防衛施設庁　建設部
19	A	東　光博	退職	㈱フォーカスシステムズ
19	A	迫田　直心	前川原	幹部候補生学校　学生隊本部
19	A	野村　俊朗	朝霞	研究本部　第３研究科
19	A	廣瀬　和紀	大村	第１６普通科連隊　本部及び本部管理中隊
19	F	磯　光三	十条	補給本部　第２部　第２調達課
19	F	園山　栄一	退職	
19	F	吉本　博	小松	第６空団司令部　装備部
19	F	郷田　進	市ヶ谷	情報本部
19	F	小曲　一之	立川	航空安全管理隊
19	F	松下　睦裕	市ヶ谷	空幕　装備部　整備課
19	F	杉山　昌宏	退職	東芝ﾏｲｸﾛｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ㈱　ASIC開発部
19	F	田中　秀明	相模原	技術研究本部　第４研究所
19	F	藤井　和弥	府中	航空支援集団司令部　装備部　装備課
19	N	松山　守秀	大村	第２２航空群司令部
20	A	高岡　正明	勝田	施設学校
20	A	榊　喜隆	久里浜	通信学校付
20	A	山形　克己	市ヶ谷	陸幕　装備　航空機
20	A	小林　実	朝霞	研究本部　第４研究科１１研究室
20	A	浅原　昭夫		
20	A	仲原　久晃	十条	補給統制本部
20	A	楠本　裕幸	朝霞	東部方面総監部
20	A	馬場崎　修	退職	星商事㈱　東京支社
20	A	半澤　康司	市ヶ谷	情報本部
20	A	伏木　享	十条	補給統制本部
20	F	岳川　清美	下甑島	西警団　第９警戒群
20	F	岸本　昌文	退職	三菱重工業㈱　名古屋航空宇宙ｼｽﾃﾑ製作所
20	F	高林　久	防府北	１２教団　航空学生教育群
20	F	石田　裕	市ヶ谷	空幕　監理課　会計監査室
20	F	田中　和之	府中	作戦情報隊　作戦情報処理部
20	F	南園　宏	網走	北警団　第２８警戒隊
20	N	木村　孝彦	目黒	防衛研究所
21	A	園田　郁夫	目黒	幹部学校
21	A	加藤　隆	札幌	北部方面総監部

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
21	A	花田　一志	市ヶ谷	中央調査隊
21	A	貴志　倫生	伊丹	会計監査隊中部方面分遣隊
21	A	桑原　幹夫	仙台	東北方面総監部
21	A	湖崎　隆	市ヶ谷	陸幕人事部厚生課長
21	A	髙橋　久泰	秋田	秋田地連
21	A	大谷昭次郎	大津市	滋賀地連
21	A	渡部　誠	富士	開実団　装実隊
21	A	浜崎　勝	駒門	第１特科連隊　第２特科大隊　本部中隊
21	A	野中　敏治	御逝去	
21	A	澤井　研次		
21	F	黒澤　豊彦	浜松	１術校　第２教育部
21	F	朱　永武	留学生	シンガポール在住
21	F	松本　修司	市ヶ谷	空幕　施設課　建設１班
21	F	沼田　幸男	十条	補本　１部　１整備課
21	F	真田　雅章	入間	プログラム管理隊　１プロ隊長
21	F	杉本　弥行	芦屋	３術校　教務課
21	F	鍋島　和史	退職	
21	F	平本　行	百里	第７航空団司令部
21	F	木山　幸保	十条	補本　計画部　補給課
21	F	廣江　勝馬	十条	補本　計画部　会計課
21	N	笹山　宏	退職	(株)笹島板金工業
21	N	山口　次郎	厚木	航空集団司令部
21	N	村田　隆斉	目黒	幹部学校幹部高級課程学生
21	N	福岡　誠	市ヶ谷	海幕監理部総務課
22	A	永栄　文晴	十条	補給統制本部　航空部
22	A	吉岡　聖二	市ヶ谷	陸上幕僚監部　装備部　施設課
22	A	原田　有繁	旭川	２特科連隊　５特科大　本部中隊
22	A	財城　昭彦	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局
22	A	松村　利宏	勝田	施設学校教務課長
22	A	松本　俊二	島松	北海道補給処
22	A	大本　健吾	市ヶ谷	情報本部
22	A	島松　正一	飯塚	第２高射特科団　本部及び本部付隊
22	A	野口　利保	島松	北海道補給処
22	F	永瀧　盛重	市ヶ谷	空幕　整備課　整備第２班
22	F	横手　裕明	府中	支集団司　防衛部　航空管制課
22	F	酒井　伸	三沢	北空司　監察官
22	F	小関　信宏	小牧	５術校　第１教育部
22	F	堂込　勝也	千歳	特輸隊
22	F	木戸　文夫	入間	空救団司令部　防衛部
22	F	野村　勝廣	市ヶ谷	空幕　監理課　会計監査室
22	N	延近　保生	十条	補給本部
22	N	高塚　裕幸	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局
22	N	中谷　茂	呉	呉地方総監部管理部人事課
22	N	塚田　真司	目黒	幹部学校
22	N	坊垣内広明		
23	A	浦川　平次	富士	富士教導団本部及び本部付隊
23	A	奥野　和男	仙台	東北方面総監部
23	A	丸山　和宏	東千歳	北指支
23	A	岩田　清文	北千歳	７１戦連隊　本部及び本部管理中隊
23	A	三木　元秀	伊丹	第１０４通信運用大隊　本部中隊
23	A	若杉　治徳	札幌	北部方面総監部
23	A	谷崎　敏弘	滝川	１０普通科連隊　本部中隊
23	A	日高　政広	市ヶ谷	陸幕防衛部　防衛課編成班長
23	A	廣塚　雅史	目黒	幹部学校

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
23	F	シンナロン	留学生	タイ王国在住
23	F	宮田　義章	芦屋	３術校　第２教育部
23	F	松尾　茂	市ヶ谷	技術研究本部
23	F	川添　一正	退職	
23	F	池邊　正	輪島	中警団　第２３警戒群
23	F	馬谷　誠二	退職	KSI(株)
23	N	井口　義定	厚木	航空集団司令部
23	N	井ノ久保雄三	呉	第４護衛隊群司令部
23	N	山下　啓治	目黒	海上自衛隊幹部学校研究部員
23	N	四元　和生	呉	呉基地業務隊補充部
23	N	数野　謙一	市ヶ谷	海上幕僚監部装備部装備課
23	N	畑中　孝行	市ヶ谷	海上幕僚監部防衛部運用課
24	A	稲葉　貞志	相馬原	１２ヘリ　本部付
24	A	芹川　慎介	市ヶ谷	陸幕　調査部　調査課
24	A	金田　辰美	市ヶ谷	技本
24	A	高澤　慎司	退職	㈱東京アイシーエス
24	A	山川　純次	市ヶ谷	陸幕　装備部　開発
24	A	山田　雅巳	北熊本	８師団司令部
24	A	常田　義則	退職	日立コノユウーター機器(株)
24	A	西津　護	大津	２教団本部
24	A	浅野　博義	富士	富士学校
24	A	太田　尚志	市ヶ谷	陸幕　教訓部　教育
24	A	大久保和美	富士	富士学校
24	A	中村　健蔵	市ヶ谷	技本
24	A	堀之内　誠	小平	業務学校
24	A	渕　靖隆	土浦	武器学校
24	F	佐藤　秀幸	稚内	北警団　第１８警戒隊
24	F	山田　眞一	春日	西部航空方面隊司令部　防衛部　防衛課
24	F	出口　潔	市ヶ谷	空幕　会計課　経理班
24	F	清水　尚志	入間	３補　調達部　原計課
24	F	中舘　利光	入間	４補　調達部　調達管理課長
24	F	藤城　希恭	府中	航空総隊司令部　防衛部　運用課
24	N	佐伯　泰啓	佐世保	とね
24	N	山本　浩	退職	㈲山本産業
24	N	小川　勝志	横須賀	横須賀基地業務隊本部補充部
24	N	松田　俊宏	退職	
24	N	中村　早速	江田島	第１術科学校
24	N	長谷川　隆	退職	㈱ムーブ
25	A	岡元　正一	福島	福島駐屯地業務隊
25	A	佐伯　義次	健軍	西部方面総監部
25	A	若本　順二	姫路	３特科連隊　本中
25	A	重石　義幸	富士	富士学校
25	A	小菅　康雄	富士	開発実験団　総務部
25	A	小野寺　靖	目黒	幹部学校
25	A	石川　哲也	小平	業務学校
25	A	大内　元	目黒	幹部学校
25	A	田草川茂人	伊丹	中方総監部
25	F	安芸　一	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局　第１幕僚室　企画班
25	F	坂本　卓己	目黒	幹部学校
25	F	藤吉　恵一	十条	補本　計画部　企画部
25	F	尾崎　信朗	那覇	８３空　整備群　装備隊
25	N	河村　正雄	目黒	幹部学校
25	N	高畠　修	下総	第２０５教育航空隊
25	N	杉原　耕二	桧町	外務省出向

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
25	N	内山　哲也	目黒	幹部学校　AC課程
25	N	籠谷　貴年	呉	ふゆしお
26	A	河原　敏和	退職	第１地所㈱
26	A	吉田　英紀	真駒内	１１施大隊　本部中隊
26	A	吉田　吉宏	船岡	第１０施設群　本部中隊
26	A	及川　幸夫	久里浜	通信学校
26	A	金子　寿弥	仙台	東北方面総監部
26	A	坂野　予彦	札幌	北部方面総監部
26	A	山下　清隆	朝霞	東部方面総監部
26	A	小野　長門	退職	熊本工業大学
26	A	松田　正行	帯広	５師団司令部
26	A	石山　暁	朝霞	東部方面総監部
26	A	石川　毅	朝霞	研究本部
26	A	瀧沢　由則	退職	三菱ｽﾍﾟｰｽｿﾌﾄｳｪｱ㈱
26	A	谷　俊彦	市ヶ谷	統幕
26	A	中村　明弘	退職	
26	A	内海　浩	目黒	幹部学校
26	A	友部　隆	朝霞	東部方面総監部
26	F	星川　敦	松島	４空団　整補群　修理隊
26	F	池畠　暢也	茨城	茨城地方連絡部　募集課長
26	F	福島　睦	目黒	幹部学校　（防衛研究所　一般課程　研修員）
26	F	米子　誠二	入間	３　補　調達部　調管課
26	F	澤木　優輔	退職	未来産業団
26	N	佐藤　寿紀	船越	護衛艦隊司令部
26	N	市坪　秀明	市ヶ谷	海上幕僚監部　防衛部　運用課
26	N	上野真一郎	厚木	厚木プログラム業務分遣隊
26	N	水野　伸彦	八戸	第２航空隊
26	N	杉山　義和	江田島	幹部候補生学校
26	N	相良　達也	下総	第２０３教育航空隊
26	N	道満　誠一	目黒	幹部学校
26	N	平野　勝	舞鶴	舞鶴地方総監部
27	A	角南　良治	目黒	幹部学校
27	A	行事　正	富士	開実団　装実隊
27	A	山之上哲郎	市ヶ谷	陸幕人事部人計課
27	A	緒方　禎浩	御逝去	
27	A	川村　治彦	退職	小野田自然塾
27	A	大居　一之	八戸	１０６高射直支
27	A	大場基美雄	朝霞	研究本部
27	A	大石　隆一	小平	業務学校
27	A	長合　友造	市ヶ谷	陸幕　防衛部　研究
27	A	津田　浩司	豊川	１０特科連隊　５特科大隊　本部中隊
27	A	馬場　政和	退職	
27	A	舞原　博己	健軍	西部方面総監部
27	A	米山多佳志	防大	防衛大学校国防論教育室
27	A	濱田　秀	市ヶ谷	防研
27	F	兼古　修	新田原	第５空団飛行群２０２飛行隊
27	F	元木　啓嗣	市ヶ谷	航空中央業務隊
27	F	甲斐　新太	築城	８空団　整備群　修理隊
27	F	髙野　宗治	小松	６空団　整補群　群本部
27	N	小川　昌宏	舞鶴	第３護衛隊群司令部
27	F	西山　利昭	退職	水沢税務会計事務所
27	F	蔵田　衛人	退職	日商岩井
27	F	沢村　徹	退職	リアル
27	F	堀田　隆治	浜松	幹部学校　第4教官室

期別	要員	氏　名	基地等	所属部隊等
27	N	益田　徹也	桧町	外務省出向
27	N	五領　隆男	呉	まきしお
27	N	交口　俊介	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局
27	N	山田　洋士	市ヶ谷	海上幕僚監部防衛部指揮通信課
27	F	足立　謹聡	入間	航空救難団　団司令部　防衛部
27	N	中里　巧	退職	中島機械(株)
28	A	永井　大介	退職	日立造船情報システム
28	A	越水　達哉	退職	
28	A	岡澤　武彦	富士	開実団　評価隊
28	A	吉田　正人	退職	大倉商事　メカトロニクス部
28	A	畦地　勇	退職	在米日本大使館
28	A	古賀　敏明	日本原	第１３特科連隊　本部中隊
28	A	幸野　英明	豊川	１０特科連隊　３特科大隊　本部中隊
28	A	三好　邦夫	富士	開実団　装備実験隊　第２実験科
28	A	足立　哲彦	市ヶ谷	陸幕　装備部　装計
28	A	鶴見　耕市	退職	東電設計(株)
28	A	湯浅　悟郎	市ヶ谷	陸上幕僚監部　防衛部防衛課
28	A	藤原　修	市ヶ谷	陸幕装備部開発課
28	A	日高　信行	北富士	部隊訓練評価隊
28	A	北原　秀章	市ヶ谷	陸幕　調査部　調査
28	A	矢野　光宏	神町	６施大隊　本部中隊
28	F	今井　邦夫	三沢	３空団　整補群　装備隊
28	F	山田　顕嗣	浜松	
28	F	神山　隆	退職	キャノン
28	F	白水　裕人	市ヶ谷	空幕　運用調整官
28	F	米田　健二	退職	
28	F	堀米　浩章	千歳	第２航空団司令部監理部
28	F	末廣　勝己	岐阜	飛行開発実験団飛実群飛行隊
28	N	河津　稔	厚木	第４航空群司令部
28	N	上野　清昭	厚木	第５１航空隊
28	N	西小路　謙	退職	航空大学校
28	N	竹本　直忠	横須賀	横須賀基他業務隊本部補充部
28	N	中川　勝也	退職	トヨタ自動車　第２ボディー設計部
28	N	内田　公明	舞鶴	舞鶴造修補給所
28	N	平島　一	退職	日本電脳相談(株)
28	N	鈴木　巧	退職	フクダ電子
29	A	松岡　恭一	退職	日立製作所㈱
29	A	駒井紀美彦	伊丹	中方総監部
29	A	古川　靖人	練馬	第１後方支援連隊武器大隊第１中隊長
29	A	古田　清悟	市ヶ谷	陸幕　防衛部　研究課
29	A	甲斐　正人	市ヶ谷	情報本部
29	A	坂井　辰也	退職	
29	A	新保　博徳	八戸	９後支連隊　武器大隊　１中
29	A	水上　義仁	旭川	２通信大隊　本部中隊
29	A	青柳　光	退職	山梨ソフトウェアー(株)
29	A	川上　和美	退職	不明
29	A	浅川　玉樹	退職	日産自動車㈱
29	A	大川　浩史	市ヶ谷	陸幕　教訓部　訓練
29	A	託摩　安廣	退職	たくま歯科医院
29	A	谷　拓弥	姫路	３特科連隊　３特科大隊　本部中隊
29	A	中村　浩之	市ヶ谷	陸上幕僚監部　人事部援護業務課
29	A	津田　芳明	久里浜	１０１搬通信大隊　本部中隊
29	A	立林　剛	帯広	５高特科大隊　本部中隊
29	A	鈴木総一郎	御逝去	

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
29	A	蛯原　良雄	善通寺	３１０武器野中
29	F	熊田原　修	大阪	調達実施本部　大阪支部
29	F	高松　実	千歳	２空団　整補群　修理隊
29	F	西村　政恭	市ヶ谷	空幕　運用第２班
29	N	宮田　敏邦	江田島	第１術科学校
29	N	佐竹　右幾	退職	
29	N	山崎　浩一	佐世保	あさかぜ
29	N	小屋敷秀彦	退職	
29	N	柏木　均	横須賀	ちよだ
30	A	笠島　広文	退職	鯖江市役所市長室
30	A	岩熊　真司	旭川	２師団司令部
30	A	亀山　淳	市ヶ谷	陸上幕僚監部　運用課
30	A	宮本　善弘	市ヶ谷	陸幕　教訓部　訓練
30	A	魚住　晴康	練馬	１師団司令部
30	A	魚躬　治晴	退職	メリルリンチ証券(株)
30	A	山口　芳正	市ヶ谷	陸幕　防衛部　運用
30	A	松岡　恭一	退職	日立製作所(株)
30	A	菅野　俊夫	千僧	第３通信大隊　本部中隊
30	A	西　良典	富士	富士学校
30	A	船津　達男	退職	嘉穂東高校
30	A	池永　博和	市ヶ谷	陸幕　教訓部　教育
30	A	中井　馨	退職	日本アーム工業
30	A	中森　雅美	市ヶ谷	陸幕　防衛部　運用
30	A	中川　洋行	霞ヶ浦	航空学校霞ヶ浦分校
30	A	中村　大助	市ヶ谷	陸幕　防衛部　運用
30	A	土屋　甲吉	目黒	幹部学校
30	A	福田　洋司	神町	６後方支援連隊　武器大隊長
30	A	矢納　裕二	青森	９師団司令部
30	A	林　宏幸	幌別	第13施設群　本部管理中隊
30	F	吉田　憲司	市ヶ谷	空幕　施設課　通信建設班
30	F	橋爪　猛	市ヶ谷	空幕　補給課　補給第３班
30	F	栗田　尚幸	御逝去	
30	F	後藤　豊	退職	上山病院
30	F	高橋　親敏	市ヶ谷	空幕　装備課　輸送室
30	F	黒田　健一	退職	フランス在住
30	F	西本　彰雄	市ヶ谷	空幕　防衛部防衛課編成班
30	N	時久　寛司	鹿屋	第１整備補給隊
30	N	湯浅　秀樹	市ヶ谷	海上幕僚監部防衛部装備体系課
30	N	百崎　邦彦	大村	第１２２航空隊
30	N	鈴木　達雄	退職	三菱重工
31	A	亀山　慎二	市ヶ谷	陸幕　人事部　補任
31	A	吉武　辰明	市ヶ谷	陸幕　装備部　輸送
31	A	久富　博幸	退職	新日本証券㈱　債権部商品課
31	A	久保　敏浩	防大	防衛大学校　訓練科訓練係
31	A	橋本　哲彰	朝霞	研究本部
31	A	佐野　光	市ヶ谷	陸幕　防衛部　研究
31	A	松井　健一	富士	開実団　装備実験隊
31	A	石丸　威司	市ヶ谷	陸上幕僚監部　防衛部　研究課
31	A	大島龍一郎	退職	松下興産㈱
31	A	辰巳　竜悟	退職	TUVラインランド技研㈱　システム認証部
31	A	池ノ本八郎	市ヶ谷	陸幕　装備部　開発
31	A	中川　博英	市ヶ谷	陸幕　人事部　厚生
31	A	椎野　健治	立川	東部方面隊航空隊
31	A	辻　政幸	目黒	幹部学校

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
31	A	田口　直志	市ヶ谷	陸幕　装備部　武器化
31	A	藤岡登志樹	市ヶ谷	陸幕　監理部　会計
31	F	阿部　博文	目黒	幹部学校
31	F	近藤　良彦	春日	西空司　防衛部　運用課
31	F	澁澤　寛	百里	偵空隊　検査隊
31	F	小南　良人	御逝去	
31	F	北村　克晶	目黒	幹部学校
31	F	野沢　隆一	入間	中空司　防衛部　防衛課
31	N	岡田　岳司	市ヶ谷	海上自衛隊東京業務隊
31	N	蝦名　伸治	市ヶ谷	海上幕僚監部調査部調査課
31	N	久保田修一	佐世保	こんごう
31	N	甲斐　義博	京都	京都地方連絡部
31	N	大井　一史	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局
31	N	迫田　浩文	市ヶ谷	中央通信隊群司令部
32	A	境　孝明	市ヶ谷	陸幕　防衛部　運用
32	A	更ヱ　雅彦	退職	奈良県警察
32	A	山地　伸一	市ヶ谷	外務省　オーストラリア大使館
32	A	市来　道啓	退職	秋貞逸郎税理士事務所
32	A	小原　真二	退職	エアーニッポン
32	A	小田　益男	市ヶ谷	統合幕僚会議　５室
32	A	上山　聡	市ヶ谷	情本
32	A	神保　俊昭	退職	
32	A	川崎　誠二	前川原	幹部候補生学校
32	A	大塚　裕治	市ヶ谷	陸幕　人事部　補任
32	A	大塚　和也	市ヶ谷	内局
32	A	竹内　利治	市ヶ谷	陸幕　付
32	A	中村　裕亮	市ヶ谷	陸幕　防衛部　運用
32	A	田口　芳郎	退職	㈱ワールド　ジオスポーツ部
32	A	福元　昌二	旭川	第２特科連隊第２大隊
32	A	福重　毅尚	市ヶ谷	陸幕教育訓練部教育課
32	A	平田　雄嗣	留萌	２６普通科連隊　２中
32	F	高橋　秀雄	市ヶ谷	空幕　防衛課　研究班
32	F	山口　直人	百里	空教団　飛行群　百里救難隊
32	F	植村　茂己	小牧	１輸空　整補群　修理隊
32	F	渡部　誠	市ヶ谷	空幕　運用課　特輸運用室
32	F	鈴木　憲	市ヶ谷	統幕事務局
32	N	河上　康博	市ヶ谷	海上自衛隊東京業務隊
32	N	後藤　幸英	退職	㈱ﾋｭｰﾚｯﾄﾊﾟｯｶｰﾄﾞ ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰｼｽﾃﾑ事業本部
32	N	松尾　研志	退職	
32	N	澤本　武朝	退職	
33	A	柿野　忠嗣	土浦	武器学校
33	A	久永　智	退職	アメリカンファミリー
33	A	近藤　哲也	東千歳	第７特科連隊第３特科大隊第５射撃中隊
33	A	郡山　直樹	真駒内	第11特科連隊
33	A	細野　容司	前川原	幹部候補生学校
33	A	山本　真也	駒門	第３５２施設中隊
33	A	山本　裕一	古河	第１施設団　本部付
33	A	川崎　英幸	退職	
33	A	大津　勝利	滋賀	滋賀地連・募集課
33	A	谷口喜一郎	目黒	幹部学校
33	A	池田　誠喜	桂	中部方面武器隊本部
33	A	中塚　修一	東千歳	第７師団司令部第３部
33	A	椎葉　博正	退職	芙蓉総ロリース㈱　新宿支店
33	A	半澤　新吾	退職	

期別	要員	氏　名	基地等	所属部隊等
33	A	富樫　勇一		PKO（ゴラン高原）
33	F	岡本　秀文	市ヶ谷	空幕　防衛課　分析室
33	F	御厨　広之	三沢	６高群　指揮所運用隊
33	F	荒木　俊一	市ヶ谷	統幕事務局
33	F	高草木浩寿	松島	第４航空団飛行群　※14.3.25 第３航空団第３飛行隊へ
33	F	新崎　秀樹	三沢	警戒航空隊　601飛行隊
33	F	増田　友晴	市ヶ谷	内部部局
33	F	田中　勝也	退職	(株）兼松
33	N	鵜澤　直樹	退職	
33	N	関口　雄輝	江田島	
33	N	高橋　真一	退職	
33	N	西窪　純	退職	
33	N	町島　敏幸	目黒	幹校CGS学生 ※13.4 小平 調査学校露語課程へ
33	N	渡邉　浩	佐世保	さわかぜ
34	A	篠原　康一	霞ヶ浦	関東補給処
34	A	松永　康則	市ヶ谷	中業支
34	A	石黒太美英	明野	航空学校
34	A	竹内　博忠	市ヶ谷	技術研究本部技術開発官　航空機担当付
34	A	田丸　正勝	富士	富士学校
34	A	田中　一要	富士	開実団　装備実験隊
34	A	筒井　鋭達	富士	富士学校
34	A	能井　智治	土浦	武器学校
34	A	氷室正一郎	退職	東陶機器(株)商品企画本部第２課
34	A	平林　理	真駒内	第１１戦車大隊第２中隊
34	F	羽田　充伸	奈良	幹候校　学生隊　１中隊
34	F	河田　成治	退職	
34	F	小笠原卓人	市ヶ谷	空幕　防衛課　防衛班
34	F	田代　秀也	市ヶ谷	空幕　厚生課　厚生班
34	N	丹羽　満良	岩国	第７１航空隊
34	N	富山　修	下関	下関基地隊
35	A	安藤　和幸	霞目	東北方面ヘリ隊第２飛行隊
35	A	戒田　重雄	多賀城	２２連隊３中隊長
35	A	坂本　雄一	函館	２８普通科連隊　３中
35	A	瀬戸口　淳	八戸	第５高射特科群本部及び本部管理中隊
35	A	川嶋　和之	北宇都宮	第１２飛行隊
35	A	袖之原公郎	帯広	１対戦ヘリ　２飛
35	A	中村健太郎	習志野	第１空挺団本部及び本部中隊
35	A	中本　尚明	目黒	幹部学校
35	A	馬淵　貴史		
35	A	福本　博氏	東千歳	第１１普通科連隊第４中隊
35	A	木場　元大	伊丹	第３６普通科連隊本部及び本部管理中隊
35	F	中澤　武志	小牧	航空救難団航空救難隊
35	F	堀　修二郎	百里	第２０４飛行隊
35	N	加藤　寛和	呉	幹部中級掃海課程
35	N	三浦　則文	佐世保	ちょうかい
35	N	森泉　周	江田島	幹部候補生学校
35	N	中原　俊行	船越	プログラム業務隊
36	A	井上　勝	久里浜	通信学校
36	A	榎窪　正和	青野原	第３３３高射中隊
36	A	岩村　伝法	退職	
36	A	山田　武彦	久里浜	通信学校
36	A	前田　尚男	駒門	１特科連隊　１特科大隊　本部中隊
36	A	倉田　一	目黒	幹部学校
36	A	村上　至	目黒	幹部学校

期別	要員	氏　名	基地等	所属部隊等
36	A	大北　知史	目黒	幹部学校
36	A	中村　英昭	習志野	１空団　普通科群　１中
36	A	藤岡　史生	目黒	幹部学校　CGS学生
36	A	日高　邦登	富士	開実団　装実隊　第６実験科
36	A	福島　浩二	市ヶ谷	情報本部
36	A	矢口　鑑	目黒	幹部学校
36	F	綿森　昭示	春日	西部航空方面隊司令部　防衛部　運用課
36	N	鳥越　要	横須賀	第５護衛隊
37	A	河合　寿士	土浦	武器学校
37	A	吉田　文二	南恵庭	７３戦連隊　1中
37	A	古田　和之	松戸	需品学校
37	A	山下　豊	東千歳	北指支
37	A	児玉　洋	名寄	第３普通科連隊　２中
37	A	森安　宏徳	市ヶ谷	東京地連
37	A	大山　剛	守山	守山駐屯地業務隊
37	A	冨原　大治	出雲	第１３偵察隊
37	A	平瀬　義	目黒	幹部学校
37	F	久重路　剛	入間	中空司　装備部　施設課
37	F	中居　景	千歳	第２航空団飛行群２０３飛行隊
37	F	塚原　敏夫	十条	補本　４部　４整備課
37	F	矢坂　勝良	入間	飛行点検隊飛行隊
37	N	岩本　正行	市ヶ谷	海上幕僚監部技術部技術第２課
37	N	高取　哲郎	防大	防衛大学校　学生課補導係
37	N	石原　寿英	退職	
37	N	木下　治信	大湊	大湊造修補給所
37	N	鈴木　隆弘	江田島	第１術科学校
38	A	奇藤　浩	前川原	幹部候補生学校
38	A	宮下　克聡	東千歳	７特科連隊　３特科大隊　５中
38	A	高岡　徳人	伊丹	３６普通科連隊　本部中隊
38	N	黒子　智彰	木更津	東部方面管制気象隊　第３派遣隊
38	A	水野　亮二	霞ヶ浦	霞ヶ浦駐屯地業務隊
38	A	尼子　将之	勝田	施設教導隊　第３施設中隊
38	F	向井　洋史	岐阜	２補　整備部　整技課
38	N	高橋　俊隆	館山	第１０１航空隊
38	N	佐藤　滝大	厚木	第３航空隊
38	N	城戸　利彰	岩国	第１１１航空隊
38	N	中村　格	船越	プログラム業務隊本部
38	N	平井　稜治	御逝去	
39	A	井上　嘉史	滝ヶ原	普通科教連隊　５中
39	A	井上　裕策	弘前	３９普通科連隊　１中
39	A	遠藤　英隆	立川	東部方面ヘリ隊　本部付隊
39	A	三好　英治	立川	東部方面ヘリ隊　本部付隊
39	A	小澤　謙雄	岩手	９特科連隊　２特科大隊　本部中隊
39	A	杉原　正典	東千歳	第１１普通科連隊　第２中隊
39	A	西田　美嗣	旭川	第２後方支援連隊衛生隊
39	A	達下　裕教	新発田	第３０普通科連隊
39	A	中村公多郎	霞ヶ浦	関東補給処
39	A	長濱　誠	退職	
39	A	野本　肇	北千歳	1地対艦ミサイル連隊　本部中隊
39	F	久保　敦	市ヶ谷	内部部局
39	F	前床　泰彦	築城	８空団　飛行群　６飛隊
39	F	大塚　晋介	知念	５高群　第１８高射隊
39	N	松崎　徹	佐世保	佐世保造修補給所
39	N	大松　清生	船越	掃海業務支援隊

期別	要員	氏　名	基地等	所　属　部　隊　等
39	N	鳥越　渉	船越	プログラム業務隊本部
40	A	上野　洋介	富士	開実団 装実隊第５実験科　※14.4 高射学校入校
40	A	永友　恒知	防大	防大理工学研究科学生　※14.4 化学学校入校
40	A	朽木　誠	帯広	第４普通科連隊　第1中隊　※14.4 富士学校入校
40	A	熊本　厳	相浦	３教団本部　※14.4 富士学校入校
40	A	高田　善行	朝霞	第1施設大隊　本部中隊　※14.4 施設学校入校
40	A	奈良　一志	海田市	第１３通信大隊　第2中隊　※14.4 通信学校入校
40	F	岩本　正臣	浜松	２術校　第１教育部
40	F	山田　賢治	市ヶ谷	情報本部
40	F	守井　孝志	千歳	２空団　飛行群　２０３飛隊
40	F	小坂　淳	美保	第３輸送航空隊
41	A	阿達　文明	函館	第２８普通科連隊　第1中隊
41	A	吉村　裕樹	岩手	９特科連隊　２特科大隊　本部中隊
41	A	建部　広喜	滝ヶ原	第１１０施設大隊　第2中隊
41	A	後藤　仁志	守山	３５普通科連隊　本部中隊
41	A	佐久間　博	神町	第２０普通科連隊　第1中隊
41	A	小段　雄三	遠軽	２５普通科連隊　1中
41	A	小林　貴	霞ヶ浦	霞ケ浦駐屯地業務隊
41	A	石井　伸幸	前川原	幹部候補生学校
41	A	川崎　英輔	富士	特科教導隊　第1射撃中隊
41	A	曽我辺信久	北熊本	第８高射特科大隊　第2高射中隊
41	A	中江　宏彰	勝田	施設教導隊　第３施設中隊
41	A	島ノ江英毅	南恵庭	南恵庭駐屯地業務隊
41	A	片上　裕文	明野	第１０飛行隊
41	A	綿貫　俊一	目達原	第４飛行隊
41	F	ﾚｲ･ｸﾞﾊﾞﾝﾃﾞｽ	留学生	フィリピン
41	F	三宅　英明	百里	７空団　飛行群　２０４飛隊
41	F	松下　尚之	防大	防大理工学研究科学生　電子工学専攻
41	F	和崎　拓己	防大	防大理工研　※14.3 飛行開発実験団(岐阜)へ
41	N	大川　洋史	退職	
42	A	足立　泰範	松本	第１３普通科連隊
42	A	井田　輝彦	防大	防大理工学研究科学生　電子工学専攻
42	A	葛西　成彦	青森	第５普通科連隊
42	A	古賀　信之	千僧	第３後方支援連隊　武器大隊
42	A	清水　優	真駒内	第１１後方支援連隊
42	A	清水辺　大	退職	京都大学大学院
42	A	永島　透	日本原	第１３特科連隊
42	N	尾崎　公彦		
42	N	土本　邦彦		
43	A	梅原　航	霞目	東北方ヘリ　２飛
43	A	作田　雄一	御逝去	
43	A	関　大吾	健軍	西部方面会計隊
43	A	徳永　亘	宇都宮	第４施設群
43	A	廣瀬　繁	吉井	警務隊　吉井連絡班
43	A	藤本　祐介	今津	第３特科連隊
43	A	古谷　尚久	国分	第１２普通科連隊
43	A	松口　俊三	伊丹	第３６普通科連隊　３中
43	A	与藤　公彦	真駒内	第１１特科連隊
43	F	春日　英夫	浜松	１空団　基群　管理隊
43	N	荒栄　拓也	舞鶴	みょうこう
43	N	江畑　泰孝	佐世保	やまぎり
43	N	森脇　竜二	横須賀	はたかぜ
44	A	渡邊　俊明	勝田	施設学校　学生
44	A	増山　哲治	玖珠	第8戦車大隊　３中

期別	要員	氏　名	基地等	所属部隊等
44	A	八尋　幸一	退職	
44	A	遠藤　由紀子	東千歳	第7後方支援連隊　2整大隊　特直支中
44	F	伊藤　恒和	那覇	南西航空警戒管制隊
44	F	若林　友和	那覇	第83航空隊
44	N	西尾　実	佐世保	さわかぜ
45	A	八木　新	旭川	第２高射特科大隊
45	A	澤水　隆一	川内	第８施設大隊
45	N	堤　充良	江田島	幹部候補生学校　※14.3　遠洋航海
45	N	津森　聡	江田島	幹部候補生学校　※14.3　遠洋航海

編集後記

合掌

今年は暖冬ということもあり防衛大学校のある横須賀は比較的暖かい日々が続いておりますが、OBの皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。私共防衛大学校少林寺拳法部員も皆強健にて日々練習に励んでおります。

さてこのたび、防大少林寺拳法部誌も第28号を発刊するに至り名実、歴史ともに厚みを増してきた感がありますが、残念なことに昨年度防大少林寺拳法部にご尽力を尽くしていただきました田村倉蔵先生がご逝去なされるなど悲しいお知らせがあり、また数年の部員の減少という深刻な問題も同時に浮き出てきております。本年度は、この問題に対し政権、部員一丸となって諸先輩方の築き上げられてきた輝かしい伝統を次の世代に引き継ぐべく、また自分たち自身の経験、成長の為にも背水の陣で対処していく所存であります。年頭からあまり喜ばしい話題ではありませんでしたが、今年は「馬」の年ということもあり、その馬にならって「千里の馬」のごとく学生舎を駆け回り「百万馬力」で部員を確保し、成果を残す所存であります。OBの皆様におかれましては、何かとご多忙中とは存じますが、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に、本部誌発行にあたり、御指導下さった部長、監督、顧問の方々をはじめ、投稿してくれた各学生に感謝し、編集後記と致します。

結手

平成14年期　OB係

樋口　智志